

(腎センター外科)

鈴木 利昭・佐中 孔・山下 賀正・  
大貫 忠雄・高橋 公太・阿岸 鉄三・  
太田 和夫

(同 内科)久保 和雄

抄録なし

## 6. 眼窩上壁を穿通したフロントガラス片による脳損傷

(脳神経外科)

沈 晴雄・今永 浩寿・井沢 正博・  
氷室 博・加川 瑞夫

フロントガラス片(強化ガラス)により顔面および前頭部に打撲裂傷をうけ、眼科・形成外科にて応急処置を受けた後に、頭部単純撮影にて頭蓋内異物を発見された症例である。

その特徴としては、頭蓋内異物の大きさを考えると、フロントガラス片の刺入口は意外と小さいことである。また、脳挫傷の程度も大きく、多数の小片が深部まで貫通していることである。

診断は頭部単純撮影にて容易になされうる。受傷時に他の外傷ばかりに気をとられずに、ガラス片による脳損傷の可能性も十分考慮して、ルーチンワークとして、頭部単純撮影をこころがけるべきである。

以上、このようなフロントガラス片による損傷も、強化ガラスの危険性故であり、より安全な H.P.R. 合わせガラスの使用が望まれる。

7. (心研外科)都合により休演

## 8. 遊離空腸移植法を応用した頸部食道癌根治術の1例

(消化器病センター外科)

勝呂 衛・大谷 洋一・村田 洋子・  
矢川 裕一・林 恒男・吉田 操・  
井手 博子・山田 明義・鈴木 博孝・

羽生富士夫・遠藤 光夫

(形成外科)

野崎 幹弘・林 道義・平山 峻

頸部食道癌根治術後の再建には、皮膚管、胃管、空腸、結腸等が使用されている。

遊離空腸を咽頭食道間に移植し、血管吻合を行なうものは、過去において、中山式血管吻合器を用いて施行されていたが、最近では、有茎胃管あるいは有茎結腸等による再建がより安全に行なわれるため、一時行なわれていなかった。昨今の Micro Surgry の進歩により、血管吻合が容易で確実なものとなつた今日、遊離小腸移植術は、頸部食道癌で小切除で根治性のあるものに対しては有用な方法である。今回われわれは、頸部食道癌に対する遊離空腸移植による一次的食道再建を行ない良好な結果を得たので報告する。

## 9. 術後上部消化管出血による再手術例の検討

(第2病院外科)

成高 義彦・菊池 友允・小川 建治・  
服部 俊弘・花岡 農夫・中田 一也・  
松村 功人・芳賀 駿介・梶原 哲郎・  
榊原 宣

当科において術後上部消化管出血に対し、外科的止血を行なつた9症例、10手術例について検討した。年齢分布は2歳から67歳にわたり、男性5例、女性4例である。原疾患は開腹手術4例、開心術3例、開頭術および椎弓切除術各1例であつた。出血までの期間は、全例初回手術より2週間以内であつた。出血巣は胃潰瘍5例、十二指腸潰瘍3例、胃十二指腸潰瘍2例であり、7例が多発性潰瘍であつた。潰瘍の深さは10例中8例が U-I・II の浅いもの、潰瘍底における血管露出は10例中9例に認められた。死亡例は9例中4例であるが、いずれも再出血によるものではなく、原疾患にて死亡した。術式、手術適応について検討すると共に最近経験した1例を供覧した。